

# 現場 癸 富士山レンジャー REPORT

第9回

## 平成18年度 富士山の環境五大ニュース

3月を迎え、春めいた日も多くなってきました。本年度は富士山の環境保全にとってどのような年だったのでしょうか？富士山レンジャーが五大ニュースを選び、自らの活動と共に振り返ります。

### ①吉田口登山道のトイレ整備完了—環境に優しく快適に

夏の短い期間に登山者が集中する富士山では、し尿の適切な処理が長年の課題でした。一方で厳しい自然条件に加え、水や電気確保が困難な山岳地帯でのトイレ整備には、技術面でもコスト面でも高いハードルがあります。富士山吉田口登山道では平成14年度からトイレ整備が始まり、本年度に全ての山小屋のトイレが環境配慮型のトイレとなりました。山小屋関係者の地道な努力や、国と県との協力の成果といえます。

### ②クリーン作戦・合同パトロール—充実する不法投棄対策

「ゴミのない富士山を！」多くの人の願いは、現実の力になりつつあります。6月には初めて山梨県・静岡県合同での不法投棄パトロールが実施されました。8月には、45周年を迎える「富士山をきれいにする会」が小池百合子環境大臣(当時)を迎え五合目を中心とした山腹地域で清掃活動を実施。NPOやボランティアによる清掃活動もいっそう活発に行われています。富士山レンジャーは1月末までに30件の不法投棄を発見し、関連機関との協力のもと多くが撤去されました。富士山のごみ対策は確実に前進していることを実感する一年でした。

### ③世界遺産一步前へ—暫定リスト入り！

1月に富士山が世界文化遺産推薦の国内候補として暫定リストへの追加掲載が決定されました。道のりは始まったばかりですが、富士山の稀有な自然や景観、それにはぐくまれた歴史・文化に対する価値が広く注目を集めています。こうした状況に呼応するように、「富士山検定」や「富士山ナンバー」などユニークな取り組みが官民間問わずひろく盛り上がりを見せました。世界遺産に登録されることも大切ですが、それを通じて多くの人が富士山の価値を再認識し、守り引き継ぐ意識が醸成される絶好の契機となっていることを嬉しく感じます。

### ④季節外れの珍現象—夏に降雪、秋に農鳥

8月13日に富士山で降雪(正確にはひょう)がありました。巡回していた富士山レンジャーは、激しい雷を伴う夕立の後、切れた雲から富士山の山頂付近がうっすらと白くなっているのを確認し、驚きました。大変珍しい現象です。11月には、通常春に雪解けと共に現れるはずの農鳥(残雪が鳥の形に見える現象)がお目見えしました。積雪が少なく、周りの雪が風で飛ばされたためと考えられます。そして、暖冬により湖はほとんど結氷せず暖かい日が続いています。富士山の「異常気象」にも地球規模での気候変動の兆候があるように思われます。

### ⑤増加に転じた登山客—登山者数大幅増！

登山者数が4年ぶりに増加に転じ、夏の富士登山は賑わいを見せました。富士山吉田口登山道では7・8月の2ヶ月間で16万人を超える登山者が山頂を目指しました(6合目安全指導センターのデータによる)。比較的天候に恵まれた8月の登山者が多かったようです。山小屋トイレの整備や清掃活動によるイメージアップも利用者増の一因かもしれません。富士山レンジャーは、スバルラインのマイカー規制期間中、バスに乗り換える登山客に富士登山のマナーや環境保全を呼びかける啓発活動を実施しました。

## こんなものをみつけたよ 舞い上がる雪煙



麓では、一雨ごとに暖くなり春が近づいている事を感じます。しかし、麓とは違い富士山の五合目以上では雨ではなく雪が降っているようです。麓で雨が降った次の日に麓から富士山を見ると稜線に舞い上がる雪煙を見られることがあります。雪煙とは、積もったばかりの乾いた雪(粉雪)が強い風によって舞い上げられて煙のように見える現象です(右上写真)。暖くなると降る湿った雪(牡丹雪)の場合、舞い上げられにくいので雪煙になることは少ないようです。

富士山に見られる雪煙は、西からの偏西風の影響を受け東側にしかできません。これに対し雲は、雪煙とは違い上空に上がってきた湿った空気が冷やされてできるので東側にしかできないということはありません(右下写真)。

これからの時期は、富士山の五合目以上でも徐々に暖かくなるために乾いた雪よりも湿った雪が多くなるようです。そのため、雪煙を目にする機会も減っていきます。



上:舞い上がる雪煙(2月15日)  
下:湧き上がる雲(2月21日)